

演者：早川岳人<sup>1)</sup>、各務竹康<sup>1)</sup>、蛭田悠平<sup>2)</sup>、熊谷智広<sup>1)</sup>、辻雅善<sup>1)</sup>、日高友郎<sup>1)</sup>、  
畑淳子<sup>2)</sup>、福島哲仁<sup>1)</sup>

所属：1)福島県立医科大学 医学部 衛生学・予防医学講座  
2)全国健康保険協会福島支部

【目的】平成 23 年 3 月の東日本大震災において、福島県を始めとした東北地方の住民の生活環境は変化した。大震災による住民への健康被害について、震災前後で協会けんぽ福島支部加入者の医療費を比較して大震災の影響を検討した。

【方法】協会けんぽ福島支部加入者を対象に、平成 22 年度と平成 24 年度のそれぞれ一年間の全医療費、入院、入院外、歯科、調剤別に 1 人あたりの医療費を計算した。性別、0 歳から 10 歳階級ごとに算出し、平成 24 年度の福島支部全体を標準人口として年齢調整を行った。被保険者の平成 24 年度の居住地郵便番号をもとに住居地を特定し、二次医療圏（7 地域）ごとに集計した。福島支部全体の加入者の 1 人あたりの医療費を 1 とした場合の各地域の 1 人あたりの医療費を指数で表した。また、レセプトの主傷病名から、医療にかかった疾患を悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、腎不全、高血圧、糖尿病、気分障害・ストレス障害、認知症の 8 分類に分けた。

【結果】全医療費では、大震災前の平成 22 年度では医療圏による違いはみられなかったが、震災後の平成 24 年度で相双地域、いわき地域で 1.1～1.2 倍高くなっていた。入院費では、震災前は会津地域が高かったが震災後は相双地域が高くなっていた。入院外では、震災前はいわき地域が高かったのが、震災後は相双地域、いわき地域で高くなっていた。歯科は、震災後に相双地域が高くなっていた。調剤は震災前には県南地域、南会津地域、相双地域で低くいわき地域が高かったが、震災後は県南地域、南会津地域は低いままであったが、相双地域、いわき地域で高くなっていた。男女別にみても、どの医療費においても同様の結果がみられ、相双地域、いわき地域が震災後に高くなっていた。疾患別では、悪性新生物は震災前後で医療費の上昇はみられなかったが、脳血管疾患は相双地域において震災前では 0.9 倍未満と低かったのが震災後で 0.9～1.1 倍に上がっていた。高血圧、糖尿病は震災後はいわき地域と合わせて相双地域で 1.1 倍以上に上がっていた。

【考察】震災直後の津波や原発等の直接の被害を受けた相双地域、いわき地域において、震災後の医療費が上昇していた。これは、被災地住民の健康被害が大きいことが考えられる。なお、医療圏や疾患によって人数の多少がみられたため、間接法による年齢調整を行った。